



由利本荘市矢島地区から見た鳥海山

鳥海山のふもとには、人々が暮らす集落や、毎年の実りをもたらす水田のひろがる平地があります。

この平地は、どうやって生まれたのでしょうか。



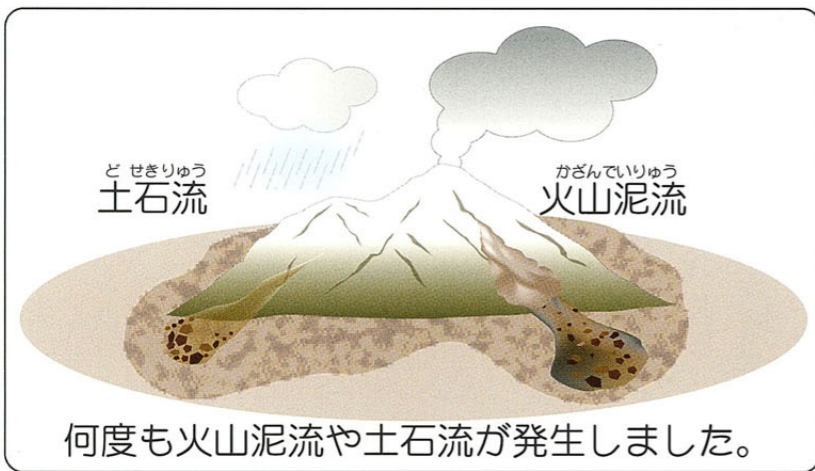
鳥海山がくり返して噴火し、火山泥流や、その後の降雨による土石流が発生しました。これを長い間に何度もくり返して、平らな土地が出来てきました。



くじゅうくしま
九十九島と鳥海山

このような平地を作る作用として、岩なだれというものもあります。

2,500年前の岩なだれは、左下の写真のように流れ下り、現在のにかほ市のある平地をつくりました。九十九島もその時につくられたのです。



何度も火山泥流や土石流が発生しました。



現在の豊かな平地ができました。



岩なだれがつくったにかほ市平地部

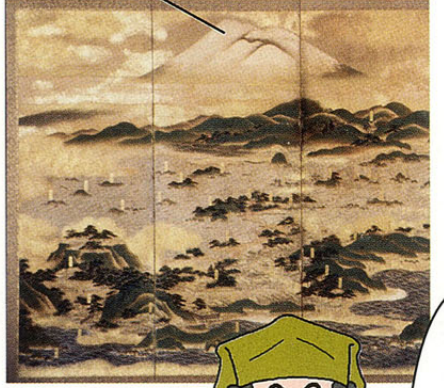


くじゅうくしま
九十九島

きさかたずびょうぶ (きんびょうぶ)
「象潟凶屏風」(別名 金屏風) 秋田県指定有形文化財



鳥海山



松尾芭蕉が訪れたころの象潟は、たくさんの小島が浮かぶ浅い湖でした。ところが、1804年(文化元年)6月4日夜に象潟沖を震源とする地震により、地面が2mほど隆起したため、象潟湖の水は外洋に流れ出て陸になってしまいました。この屏風は、地震前の象潟の様子を知ることができる貴重な資料です。

元禄2年(1689年)松尾芭蕉は門人の曾良とともにみちのく(東北地方)を旅しました。そのときの旅行記が有名な「奥の細道」です。芭蕉の旅での目的は象潟でした。「奥の細道」に【このたび、松島・象潟の眺めをともにせんことを喜び・・・】と書かれていることなどから分かります。象潟は、江戸時代の一大観光地だったのです。



松尾芭蕉像

象潟や雨に西施がねぶの花 ※1 西施…紀元前の中国での麗人(美人の意味) ※2 ねぶ…ネムノキのこと
(何という象潟の雨景であろうか、雨に濡れた合歡の花は、憂愁を混え、目蓋を閉じた西施のようである)
この俳句は、象潟を訪れた時に芭蕉が詠んだものです。



稲や鳥海
実のま
つちのうえ

わしも一句考えたぞ

Q2の答え:このページの下の記事に書いてあるよ